

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ **A型肝炎**の報告が1例(40歳代男性)あり、症状は全身倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸、肝機能異常です。本年の累積報告数は6例となりました。
- ・ **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**の報告が1例(80歳代女性)(第48週追加報告分)あり、症状はショック、肝不全、DICです。感染地域は国内で、感染経路は不明です。本年の累積報告数は9例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が1例(30歳代男性)(第47週追加報告分)ありました。症状は無症状で、感染地域は国内です。本年の累積報告数は62例となりました。
- ・ **百日咳**の報告が3例(10歳未満女性1例、40歳代女性1例及び50歳代女性1例)(第48週追加報告分含む)ありました。感染地域は全て国内です。本年の累積報告数は108例となりました。
- ・ **インフルエンザ**の定点当たり報告数が5.74(396例)となり、先週(1.77)の3倍以上増加しました。手洗いとうがいを励行し予防に努めましょう。

京都市では、インフルエンザや手洗いの方法のリーフレットを発行しています。リーフレットについては下記ホームページを御覧ください。

○「手洗いの方法」リーフレットは、「こどもに多い感染症について」のページ内にリンクがあります(衛生環境研究所)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000197526.html>

○こどもの感染症リーフレット「インフルエンザ」(下記ページ内にリンクがあります)(衛生環境研究所)

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000146238.html>

◆ 今週のトピックス:<水痘>

京都市の水痘の定点当たり報告数は、前週の0.70(30例)から増加して1.07(46例)となりました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 11例(肺結核 5例, その他結核 3例, 潜在性結核感染者 3例)うち喀痰塗抹陽性 3例
【1月以降の累積報告数 313例(肺結核 139例, その他結核74例, 潜在性結核感染者 100例)うち喀痰塗抹陽性 65例】
- ・ 四類: A型肝炎 1例【1月以降の累積報告数 6例】
- ・ 五類: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 9例】
- ・ 五類: 梅毒 1例【1月以降の累積報告数 62例】
- ・ 五類: 百日咳 3例【1月以降の累積報告数 108例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	5.74	396
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.81	207
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.95	84
	③ 水痘	1.07	46
	④ 伝染性紅斑	0.65	28
	⑤ 咽頭結膜熱	0.51	22
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<水痘>

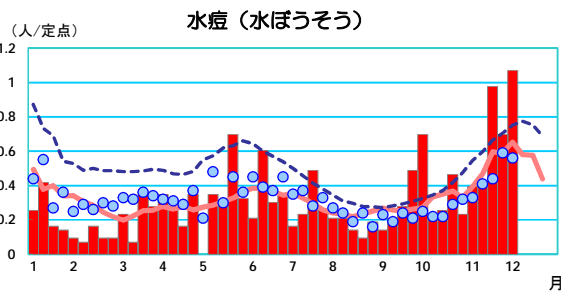
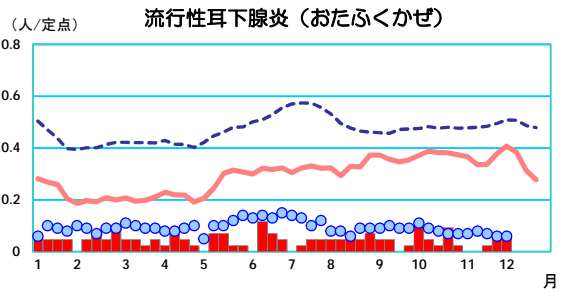
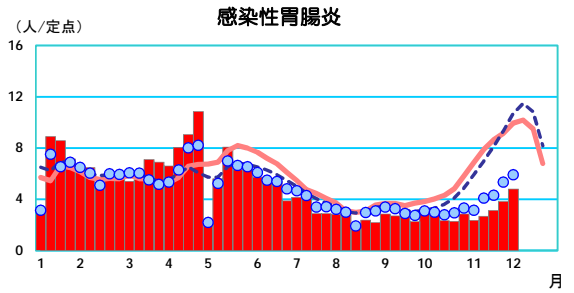
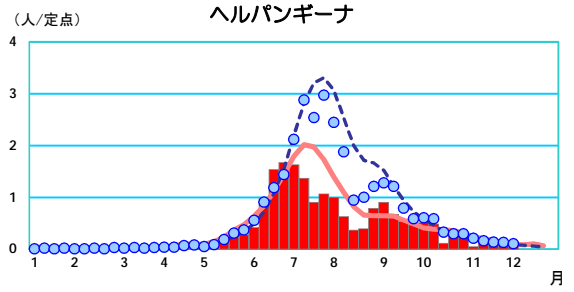
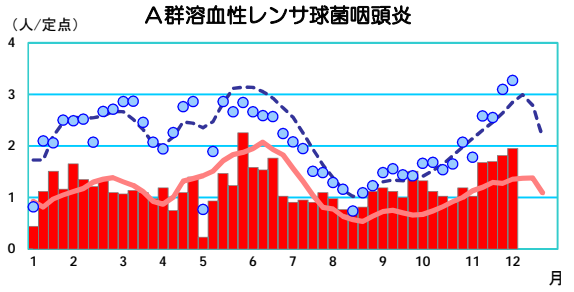
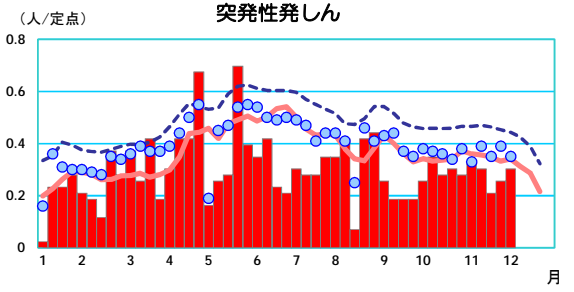
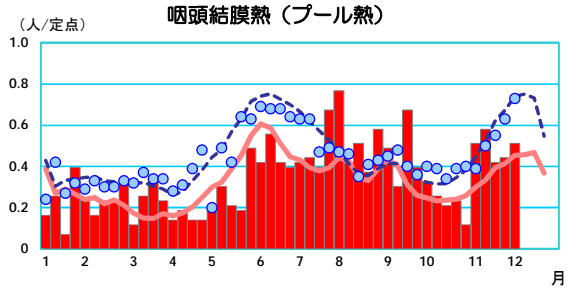
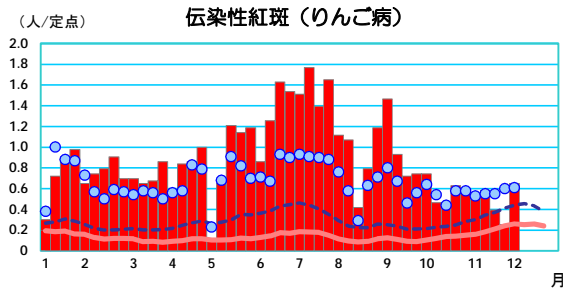
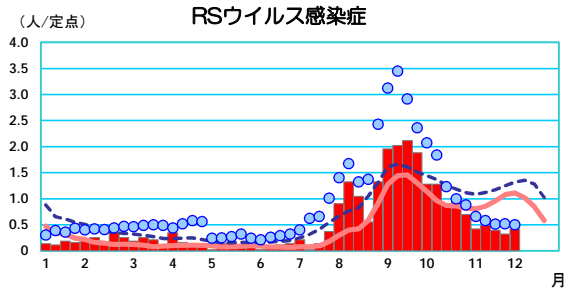
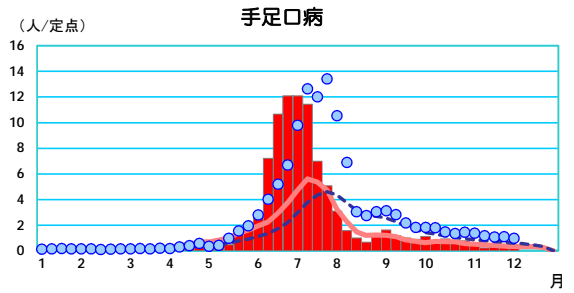
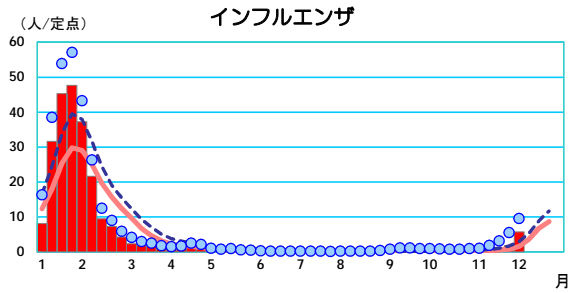
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは、2019年12月11日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2019年）



第49週(12月2日～12月8日)トピックス: <水痘>

京都市の水痘の定点当たり報告数は、前週の0.70(30例)から増加して1.07(46例)となりました。第47週以降、過去5年平均とほぼ同じかそれを上回って推移しています。全国では0.56で、第1週から今週まで過去5年平均を下回っています(図1)。

週ごとに警報となった行政区数を見ると、第47週及び第48週は2区(上京、左京)だったのが、第49週は4区(左京、南、右京、伏見)と倍増しています(図2)。

京都市全体としては、現時点で注意報に留まっているものの、このような最近の発生の拡大に加え、水痘は冬に増加する傾向があることから、今後の動向に注意が必要です。

水痘の警報・注意報の基準値は昨年第36週から変更になり、警報開始:2、警報終息:1、注意報:1となりました(変更前はそれぞれ7、4、4)。これは、水痘ワクチンが2014年10月から小児の定期接種に導入され、全国的に報告数が減少したことが大きな理由の一つです。

水痘は第五類感染症の定点把握感染症*となっており、全国約3,000箇所の小児科定点医療機関(指定届出機関)から週毎に報告があります。全国の小児科定点から報告される水痘患者数の推移をみると、1999年から2011年までは年間20万～28万人でした。2012年には20万人を下回り、2014年には約16万人となりました。2014年10月に水痘ワクチンが定期接種となった後、2015年には半減して8万人を下回り、2017年は約6万人となっています(図3)。

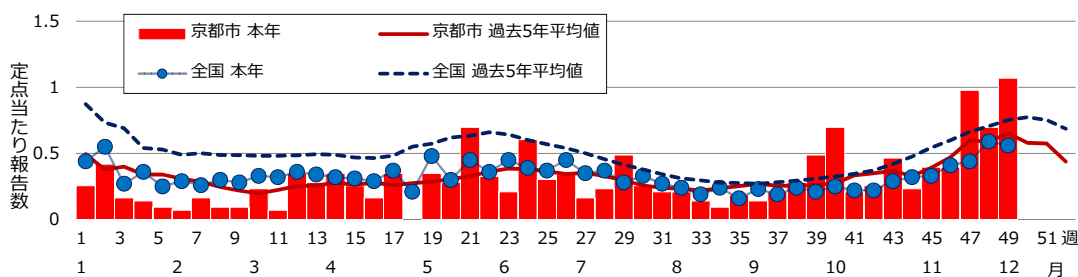
水痘は一般的には「みずぼうそう」と呼ばれ、水痘帯状疱疹ウイルスを原因として起こる疾患で、ヒトからヒトへ接触や飛沫あるいは空気感染によって広がります。感染力は非常に強く、ワクチンを接種していない場合、約8割の小児が罹るとされています。潜伏期間は通常2週間程度です。

その症状は通常全身性で、痒みのある発疹が見られた後、紅斑、丘疹を経て3～4日で水疱となり、その後痂皮化(かさぶた化)します。発疹出現前に発熱や倦怠感を伴う場合があります。一般に成人の方が子どもよりも重症化しやすいとされています。治癒後は終生免疫を獲得します。まれに二次性細菌感染や中枢神経系症状を合併する場合があります。また、学校保健安全法では第2種感染症に指定されており、原則としてすべての発疹が痂皮化するまで出席停止となっています。

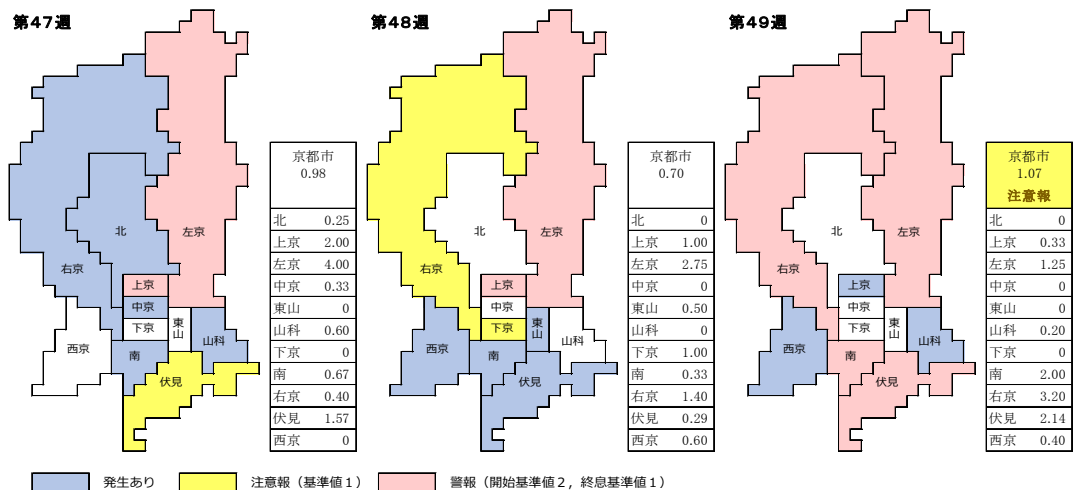
水痘ワクチンは弱毒生ワクチンで、定期接種では2回接種します。接種対象は1歳から3歳の誕生日の前日までの小児で、標準的な定期接種期間では、1回目を1歳から1歳3箇月に、2回目を1回目の接種後6箇月から12箇月の間隔をおいて接種します。定期接種以外は任意接種となりますが、1回の接種で90%以上が抗体を獲得するとされています。

*ただし入院を要する水痘は全数把握感染症で、診断した全ての医師から報告があります。

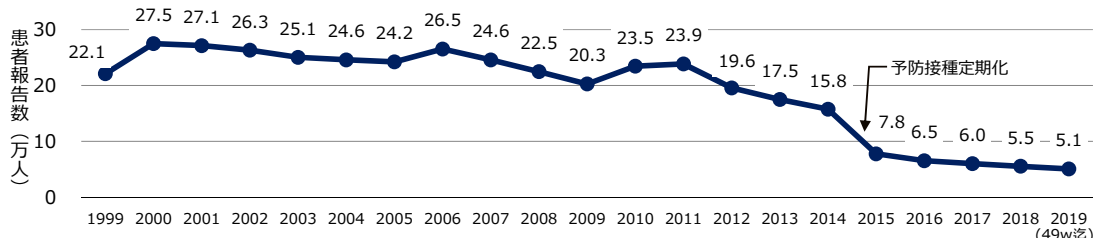
(図1) 京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



(図2) 行政区別 警報・注意報マップ(第47～49週)



(図3) 全国の患者報告数の推移



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第49週

疾病,行政区別報告数

2019年12月2日～2019年12月8日

データ入手日:2019年12月11日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)	
男女合計																			
北	29	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-						
上京	11	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	1						
左京	84	3	3	18	19	5	-	4	3	-	-	-	-						
中京	25	-	2	4	14	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	8	2	1	2	17	-	-	-	-	1	-	-	-						
山科	37	2	-	8	1	1	-	2	4	2	-	-	-						
下京	19	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-						
南	43	-	-	7	9	6	-	7	-	-	1	-	-						
右京	56	8	10	24	35	16	11	4	-	-	-	-	1						
伏見	45	1	4	18	84	15	7	9	2	-	1	-	-						
西京	39	-	2	2	25	2	-	-	3	-	-	-	-						
京都市計	396	18	22	84	207	46	20	28	13	3	3	-	2	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)	
男女合計																			
北	4.14	0.50	-	-	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-						
上京	2.20	-	-	0.33	-	0.33	-	-	0.33	-	-	-	1.00						
左京	12.00	0.75	0.75	4.50	4.75	1.25	-	1.00	0.75	-	-	-	-						
中京	5.00	-	0.67	1.33	4.67	-	0.33	0.33	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	2.67	1.00	0.50	1.00	8.50	-	-	-	-	0.50	-	-	-						
山科	5.29	0.40	-	1.60	0.20	0.20	-	0.40	0.80	0.40	-	-	-						
下京	6.33	-	-	-	1.50	-	0.50	-	-	-	-	-	-						
南	8.60	-	-	2.33	3.00	2.00	-	2.33	-	-	0.33	-	-						
右京	7.00	1.60	2.00	4.80	7.00	3.20	2.20	0.80	-	-	-	-	1.00						
伏見	4.09	0.14	0.57	2.57	12.00	2.14	1.00	1.29	0.29	-	0.14	-	-						
西京	4.88	-	0.40	0.40	5.00	0.40	-	-	0.60	-	-	-	-						
京都市計	5.74	0.42	0.51	1.95	4.81	1.07	0.47	0.65	0.30	0.07	0.07	-	0.20	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第49週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年12月2日～2019年12月8日

データ入手日:2019年12月11日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	396	2	3	5	20	16	21	20	23	24	22	24	86	12	21	20	41	11	9	7	9
RSウイルス感染症	年齢3	18	4	1	7	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		22	-	-	4	4	2	3	5	-	1	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		84	-	-	1	4	11	4	11	10	8	7	8	10	1	9	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		207	3	8	28	29	19	24	18	7	10	8	5	22	4	22	-	-	-	-	-	-
水痘		46	1	-	3	-	1	5	1	6	7	4	10	8	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		20	-	-	7	4	2	3	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		28	-	-	1	2	4	7	3	3	2	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		13	1	6	4	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		3	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	年齢2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎 (※4)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	5.74	0.03	0.04	0.07	0.29	0.23	0.30	0.29	0.33	0.35	0.32	0.35	1.25	0.17	0.30	0.29	0.59	0.16	0.13	0.10	0.13
RSウイルス感染症	年齢3	0.42	0.09	0.02	0.16	0.09	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.51	-	-	0.09	0.09	0.05	0.07	0.12	-	0.02	-	0.02	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.95	-	-	0.02	0.09	0.26	0.09	0.26	0.23	0.19	0.16	0.19	0.23	0.02	0.21	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		4.81	0.07	0.19	0.65	0.67	0.44	0.56	0.42	0.16	0.23	0.19	0.12	0.51	0.09	0.51	-	-	-	-	-	-
水痘		1.07	0.02	-	0.07	-	0.02	0.12	0.02	0.14	0.16	0.09	0.23	0.19	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.47	-	-	0.16	0.09	0.05	0.07	0.05	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.65	-	-	0.02	0.05	0.09	0.16	0.07	0.07	0.05	0.07	-	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.30	0.02	0.14	0.09	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.07	-	-	0.02	-	-	0.02	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	0.05	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	年齢2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.20	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎 (※4)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第49週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2019年12月11日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	39	32	38	67	122	396
RSウイルス感染症	30	18	21	17	14	18
咽頭結膜熱	5	22	25	18	19	22
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	51	44	72	73	78	84
感染性胃腸炎	123	101	115	135	165	207
水痘	10	17	17	42	30	46
手足口病	33	22	9	13	16	20
伝染性紅斑	26	22	25	17	11	28
突発性発しん	12	14	13	9	11	13
ヘルパンギーナ	10	2	5	6	3	3
流行性耳下腺炎	1	-	-	1	3	3
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	-	-	1	2	2
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	346	294	340	399	474	842

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	0.57	0.46	0.55	0.97	1.77	5.74
RSウイルス感染症	0.70	0.42	0.49	0.40	0.33	0.42
咽頭結膜熱	0.12	0.51	0.58	0.42	0.44	0.51
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.19	1.02	1.67	1.70	1.81	1.95
感染性胃腸炎	2.86	2.35	2.67	3.14	3.84	4.81
水痘	0.23	0.40	0.40	0.98	0.70	1.07
手足口病	0.77	0.51	0.21	0.30	0.37	0.47
伝染性紅斑	0.60	0.51	0.58	0.40	0.26	0.65
突発性発しん	0.28	0.33	0.30	0.21	0.26	0.30
ヘルパンギーナ	0.23	0.05	0.12	0.14	0.07	0.07
流行性耳下腺炎	0.02	-	-	0.02	0.07	0.07
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.60	-	-	0.10	0.20	0.20
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	8.17	6.56	7.57	8.77	10.11	16.26

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。